

教科	科 目	単位数	学年・クラス
家庭	家庭基礎	2	1年1組・2組

### 1 使用教材

使用教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる
出版社	第一学習社
副教材等	令和5年度 家庭科ノート
出版社	愛媛県高等学校 家庭科教育研究会
副教材等	令和5年度 調理実習ノート（基礎編）
出版社	愛媛県高等学校 家庭科教育研究会

### 2 学習の目標

1	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境に関する知識と技能を身に付ける。
2	学んだことを生かして家庭や地域、社会の問題を見つけ、解決策を提案できる。
3	自分や家庭、地域社会の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付ける。

### 3 評価の観点・方法

評価の観点	内 容
① 知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣生活、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

評価方法	観点別重要度			主な評価項目
	①	②	③	
学習態度	C	B	A	授業中活動への積極的な参加・教師の発問に対する応答
ノート提出	A	A	A	期限内の提出・ノートの記述の取組状況
課題・作品提出	A	A	A	期限内の提出・作品の出来ばえ
定期考査	A	A	C	定期テスト

※表中のA・B・Cは評価の重要性を高い順に表している。

4 学習計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい
1 学期	<p>オリエンテーション</p> <p>1 これからの生き方と家族 1節 生涯の生活設計 2節 家族・家庭と社会とのかかわり</p> <p>2 次世代をはぐくむ 1節 子どもの発達 2節 親の役割 3節 子育て支援と福祉</p> <p>3 充実した生涯へ 高齢期を生きる 高齢社会を支え合う</p> <p>4 ともに生きる 社会保障制度と福祉</p> <p>ホームプロジェクトについて</p>	<p>学校家庭クラブ活動・ホームプロジェクトについて理解する。</p> <p>各ライフステージの特徴と課題と、生涯発達の視点から、青年期の意義と発達課題を理解する。生活における価値観や生き方が多様化していることを認識し、自己の価値観に基づく生活設計ができる。家庭生活と現代の家庭に求められている諸機能を理解する。</p> <p>子どもの育つ力と発達課題を知る。 乳幼児期は、人間の発達の基礎を作る最も重要な時期であることを理解する。 遊び、基本的な生活習慣の形成について学ぶ。 子どもを取り巻く社会変化の現状を理解し、子育て支援の在り方を考える。 わが国の高齢化の現状を理解し、高齢社会の在り方を考える。 高齢期の心身の特徴、個人差が大きいことを理解する。 高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。 一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知り、社会保障制度の理念と内容を学ぶ。 ノーマライゼーションの実現に向けて実践的な態度を身に付ける。</p>
2 学期	<p>6 衣生活をつくる 1節 人の一生と被服 2節 被服材料と管理 3節 これからの衣生活</p> <p>5 食生活をつくる 1節 人の一生と食事 2節 栄養と食品 3節 食生活の安全のために 4節 食生活をデザインする 調理実習</p>	<p>被服の機能を理解し、望ましい着装について考える。 被服材料の特徴を理解し、品質表示等の意味が分かる。 被服に適した洗濯や管理方法を知る。</p> <p>日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について理解する。 食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。</p>
3 学期	<p>7 住生活をつくる 1節 人の一生と住まい 2節 住生活の計画と選択</p> <p>8 経済生活をつくる 1節 私たちの暮らしと経済 2節 消費者問題を考える 3節 持続可能な社会をめざして</p>	<p>住居の機能や間取りの基礎知識を学ぶ。 ライフステージに合った住居を考える。 住居を選ぶ際、住環境や地域社会とのつながりを理解する。</p> <p>家計の構造や家計管理を理解し、ライフステージや社会保障制度などと関連づけて考察する。 消費行動の意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深め、生活情報を適切に活用することができる。 消費者としての権利と責任を理解し、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深める。</p>